

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(東舎ユニット)		
所在地	島根県出雲市奥宇賀町23番地1		
自己評価作成日	平成28年7月30日	評価結果市町村受理日	平成28年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「食は命」…”めぐりくる季節を食で感じる”を、東舎の支援目標に掲げ、毎月、”食レク”という形で季節に応じた様々な行事を行い、食べる喜び、楽しさを感じてもらっている。又、理念にもある「一瞬の笑顔」を求めて…”スタッフから明るさ、にぎやかさ、笑いを発信して、日々楽しく生活してもらう事を意識している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成28年8月10日		

暖かい木のぬくもりを感じる住まいは、明るく清潔で季節感を感じる。グループホームの実績がありノウハウが蓄積されている。いつも刺激や楽しさを求めており、毎年、毎月の支援目標は、時に地域も巻き込んで積極的に行われている。地域行事の参加もまた日々の生活の楽しみとして、利用者ひとり一人が事業所内で役割をもった生活をされ、職員も利用者のペースに合わせて、自然に穏やかに関わり、尊厳と自己決定に配慮され自立に向けたケアが提供されている。「一瞬の笑顔を求めて…」という理念は職員のヒアリングからも、また調査当日の職員の声掛けや対応からも窺い知る事ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和をして共有、確認を行っている。又、毎月の理念も職員が考え実践している。	ユニット別に毎年、毎月の独自の理念を作り、職員が積極的に考えて実践している。いつも新鮮な気持ちで取り組みを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校行事、園行事、イベントの参加をしている。又、ボランティアの方、町内の方が楽舎の行事へ参加され、交流している。	地域の行事にも積極的に参加しており、事業所も又地域に対しての啓発の場として交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、平田福祉フェスティバルでの啓発事業、取り組みの発表を行っている。又、中学生の体験学習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	和やかな明るい雰囲気で行い、たくさんの意見・要望を引き出す努力をしている。会議で出た案は職員へ伝達・共有し、サービス支援につなげている。	運営推進会議では報告のほかに実際行事に参加してもらい感想も聞いて事業運営に反映できるような意見交換を積極的に行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に情報交換を行ったり、市役所へ出向いた際に意見交換をしている。	運営推進会議のほかにも、都度連絡相談できる関係作りができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い職員全員で確認、周知を行っている。リスクの配慮をしながら「鍵のかけないケア」を継続している。	身体拘束をしないケアの実践は日々のケアの中でも自然に行われており、意識も高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、内部研修を行い確認している。日々の中で振り返りをして、よりよいケアを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修によって、権利擁護に関する制度について理解を深めている。研修を担当する職員が毎回かわることで誰でも説明、対応できる取り組みがされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約についての説明、改定時には面会時、又は文書にて、御家族の方にお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に御家族や利用者様に出席していただき、意見要望を聞き、反映させている。御家族の面会時に、すすんで声を掛け要望等を伺っている。気軽に話しやすい雰囲気づくりをしている。	毎月職員が手書きでひとり一人利用者の状況の報告の手紙を家族に送ったりするなど日頃からのコミュニケーションを大事にしておられ、ご家族からの意見や要望も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や内部研修の際に意見交換をし、運営に反映されている。	意見交換は日々のケアの中でもその場ですぐ行われている。スタッフ間の関係は良好ですぐに相談できる体制ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年頭に個々に今年の目標(決意)を掲げ、業務に取り組んでいる。悩み事があれば、個々に相談できる環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修をどんどん受けるよう声掛けしており、参加者から他の職員への伝達や説明をしてスキルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設と交流をはかり、良いところは取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で本人様の不安な気持ちや御家族の要望を聞き、支援につなげられるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際に意見や要望を聞いたり、相談にのっている。又、支援方法を説明し、会話のやりとりを行いながら、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・御家族から得た情報を基に、ケアマネージャーや必要に応じてかかりつけ医とも連携をしながら、サービスの提案を行い、納得をされた上で楽舎でのサービスを利用いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、生きる知恵もらう人生の先輩として敬っている。ちまき作りや干し柿作りなどの行事では知識や経験を活かし活躍され、普段の暮らしの中でも職員が教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に対し、面会時と毎月のお手紙にて日頃の様子をお知らせしている。楽舎と地域の行事を御家族にお知らせし、積極的に参加していただく事で、共に支えられる環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある友人・知人の方に気兼ね無く、面会にお越し頂いている。又、以前に利用していた商店への買物の支援や、地域の公園や施設にて花見などの季節行事を取り入れ、閉じこもりの無い暮らしを実現している。	馴染みのある人が気兼ねなく面会できる支援、希望する場所に外出する支援がなされ、地域ボランティアの導入にも積極的である。関係が途絶えない支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握して、1人ひとりが孤立することのないよう、座席の配置や環境の整備をしている。又、共同生活の場でお互いが支え合えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には必ずアルバムを作って家族様に手渡しして、何時でも相談に乗れるよう連絡先も一緒に添えている。退所後も行かれた施設や病院へ面会に行き、つながりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の記録をモニタリングして、その思いをくみ取り、より良い暮らしをしていただけるよう、必ず本人様と対話して検討し、ケアプランを作成している。その方にとって必要な物があれば、御家族とも相談し、持って来ていただいている。	本人の思いや意向に沿う支援に努めている。ご家族にも意見を聞き一緒に支援をする努力も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、御家族からの生活プロセス、生活歴などを記入いただき、入居者様との会話からどのような人生を送って来られたのか把握に努めている。言葉や行動、細かなしぐさからも生活リズムや思いを感じとり支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況、水分、排便、食事を記録する表があり、誰が見ても一目で解る仕様にしてあり、状況を把握している。又、気付いた事は、検討会議、モニタリングを行い職員同士共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にどのように楽舎で過ごしていただきたいのか、その都度状況に合わせて希望・要望をお聞きしている。安全且つ、より豊かに過ごしていただけるよう、現状にあった計画を立てる。	利用者本意のケアプランであり、日々の記録の中にも必ず職員が確認できる作成がされ、現状に即したプランの作成に至っている。介護計画の説明に、ご家族も協力できる体制ができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの長期・短期目標の評価、日々の気づきや状態を毎日カルテに記録している。申し送り中に職員で話し合う場(検討会議)を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居される前に情報をしっかり把握する。居室の配置など、なるべく家を再現できるよう心掛けている。御家族の面会時には必ずお茶をお持ちし、ゆっくり落ち着いてお話が出来るよう、心地良い空間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の学習発表会、卒業式への参加、児童とクラブ活動を通じて交流している。季節ごとに銀行へ作品を出展するなど、個々の力を発揮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続していただき、24時間の受け入れ体制にある受診も、御家族の都合と意志を尊重して支援をしている。	かかりつけ医での医療が継続できるように家族と共に協力して通院介助も行われている。本人家族が納得できる受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常や日頃の関わりで違和感があれば、看護師やかかりつけ医へつなぎ、指示をもらいながら支援や看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院にはカンファレンスを行い、医療機関と事業所との情報の共有により、本人様・御家族が安心して治療を受けられる体制づくりをしている。入院中、スタッフが足を運び情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化するごとに説明をしている。本人様・御家族の意向を尊重し、事業所内とかかりつけ医との話し合いで、安心して任せていただける支援の提供を、日頃より心掛けている。	本人、家族の意向を尊重して、事業所が提案できる最良の支援方法を十分に話し合い、説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルを設置し、全利用者様のカルテに119シートを加え、バイタル異常値や病歴が常に確認できる。AEDの使用方法も含む、救急対応の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。避難誘導アセスメントをし、全職員が利用者様の身体状況を把握して訓練をしている。地域への連絡体制も連絡網の中に組み込んで、緊急時はお願いできる体制をとっている。	避難訓練、消防訓練を行い、地域との連絡伝達の訓練も行われている。最善の体制を話し合い、実践へ活かせるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した対応と排泄や入浴時の羞恥心について配慮している。ツイタテ等も対応している。	尊厳の重視については職員への徹底がはかられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶時の飲み物や食事会の時、本人様の食べたい物、好みの物を自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせて、ご本人の思いを尊重したペースで対応している。外出できる時には、数人でも希望にて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の体調、天候等に合わせたお洒落を楽しんでいただき、理容、お化粧品等、その人に合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝昼の食事作りに、利用者様と一緒に下準備、盛り付けを行っている。利用者様が楽舎で栽培した食材を使う事もある。	調査当日も栽培した野菜や、全員で作ったぼた餅が食卓に並んでいた。食を楽しむ支援が支援目標とともに実践されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調を見ながら、毎月の体重測定も把握しながら、食事量、水分量の把握、支援をしている。各々に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誤嚥性肺炎の予防を含めて口腔ケアを行っている。出来ずらい人は、必ず介助に入って支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ動作の把握をして声掛け、誘導を行っている。又、貼紙をして、トイレを知らせたりテープで目印を作ったり、工夫を心掛けている。	排泄パターンを把握したうえで、無理のないトイレ誘導を行ったり、張り紙をしてトイレを知らせたり工夫をして自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の呼び掛け、実施。又、歩け歩け運動をして、下剤の頻度を減らしている。腸の動きが良くなるように、体操時には腹部マッサージ等取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望を聞きながら、入浴支援を行っている。又、季節に合わせて気持ちよく入浴できるように、菖蒲やゆずなどで季節を感じて入浴していただいている。	ひとり一人の希望に合わせた入浴が行われており季節の菖蒲湯や楽しみももり入れて気持ち良く入浴さきる配慮もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠作用としてホットミルクを寝られる前に飲んでいただいたり、ゆったりとした声掛けで気持ちを落ち着かせて休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事を確認し、日々職員一同把握に努めている。誤薬防止として、服薬支援の際、日付・名前を声に出し服薬していただいている。又、症状に変化がある時は、しっかりと申し送りをして職員間で共有・確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動、絵画、カラオケ、料理など一人ひとり何がお好きなのかを聞き出し、その方の生活歴を活かした支援に取り組んでいる。個々に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物と一緒に出かけたり、四季折々の風景を見るといったドライブなどの支援をしている。又、外出先でお茶をしていただいたり、地域の行事、展示会にも参加している。	個々の体調に合わせた外出を心掛けている。買い物、ドライブ、外食、花見、地域行事、展示会の参加。今後も内容が多岐にわたって行えるように話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し、希望とされる品物を購入していただく支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を利用していただいている。手紙・年賀状の支援を行い、なじみの関係の継続を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに月ごとの作品を掲示し、また季節感を感じてもらえるように、旬の花を生けている。廊下へ年間の作品や絵画や俳句をならべ、視覚で楽しんでいただいている。空調の管理、嫌な臭いを作らない配慮をしている。	月毎の利用者作成の季節を感じ取れる作品の掲示や、季節の花が生けられ、あらゆる壁には視覚で楽しめる作品が並んでいる。空気のみよどもなく清潔な環境が印象的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳ベンチを所々に配置し、各々が思い思いに、自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある物を持って来ていただき、本人様・御家族の意見を取り入れながら、物の配置を工夫している。本人様の状況により、ベッド・タンスの位置や危険リスクの配慮を考えている。	自宅で使い慣れた家具や大事なものをもって来ていただいて落ち着いた生活の場を作っている。ご家族の意見も反映して危険のない居室作りを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室がわかるように、大きな字で張り紙をしている。ホール・居室には危険物や不要物を置かず、行動動線の確保と整理整頓を心掛けている。		